

小松電機産業(松江)が異業種交流

防虫シートシャッター開発

従来品より阻止率2倍



異業種交流で新開発した防虫シートシャッター「オプトロンシャッター(門番)」の商品を説明する小松社長。東京・新大久保、ワンストップ・セミナールーム

高速自動シートシャッターで業界シェアトップの小松電機産業(松江)が、小松昭夫社長は二十八日、東京の化学品メーカーなど二社との異業種交流で企画、新開発した防虫シートシャッター「オプトロンシャッター(門番)」を九月から本格販売すると発表した。食品業界をはじめ、異物混入などのHACCP(ハセップ)「危害分析重要管理点」導入が急務になっている工場などで、飛行昆虫を誘引する光だけをカットし、建物への虫の飛来を防ぐ新しい防虫システム。初年度、二千台の販売を目指す。

9月から本格販売

東京都内で小松社長らが共同会見して発表した。小松電機産業と共同開発したのは「オプトロン防虫システム」の企画・製造元の大成化工(東京都葛飾区)と防虫・防菌・総合衛生管理システムの業界大手イカリ消毒(東京都新宿区)の二社。虫に見える光(300〜500ナノメートルの波長)を大幅にカットする「オプトロンシート」を共同開発、販売している両社と、高速・自動開閉によるシートシャッター「門番」で七割近いシェアの小松電機産業が十年ほど前から開発を進めてきた。

「オプトロンシャッター(門番)」は、小松電機産業のシートシャッターのシート部分に「オプトロンシート」を導入した商品。緑色のシートは透明性と耐光性を兼ね備え、従来のオレシントの二倍の誘引阻止率があるといい、最速毎秒一・四メートル巻き上げ可能な小松電機産業の高速・自動開閉システムとの組み合わせで、虫の飛来を防ぐ。また、空調効果アップによる省エネや防じん、防音対策にも効果的で、食品業界以外にも薬品、化学、精密機器、印刷業界など、幅広い業界で総合品質管理の必需品としての普及を見込んでいく。

サイズは開口が〇・八一

六・五メートル、高さが一・一五メートルの間に、百ミリピッチで受注生産する。価格は自動にハセップへのニーズは高い。量産によるコストダウンが今後の課題と話した。

小松社長は「〇一〇一五

問題以来、食品業界を中心